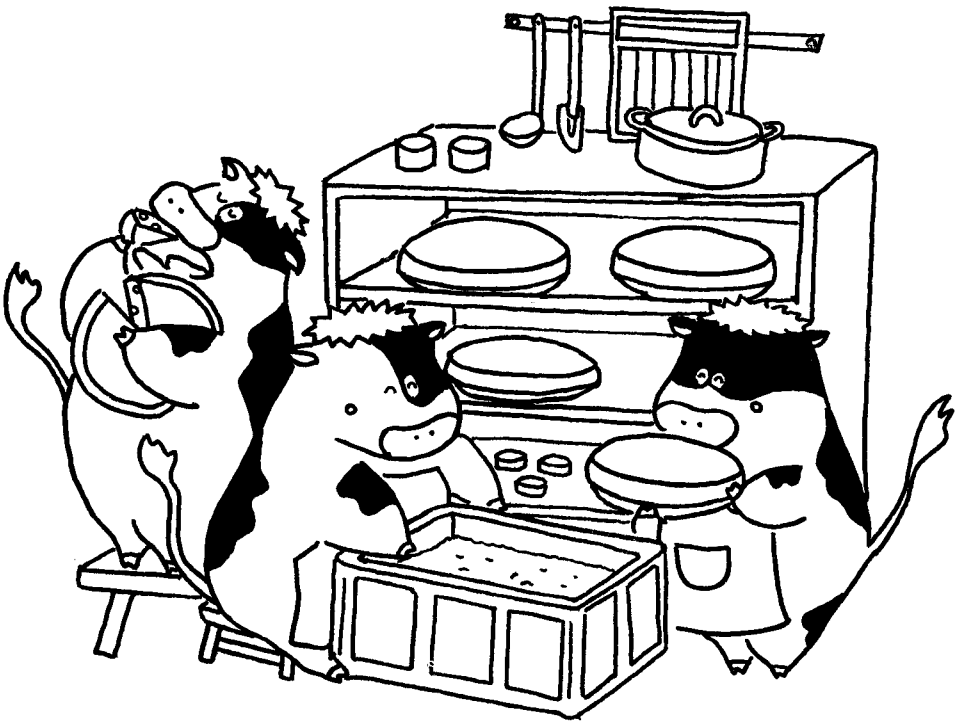
VI 生　　活



1．ゆとりある農家生活

農村は、豊かな自然との共生など、都市では味わうことのできない伸びやかで、潤いのある暮らしができる条件に恵まれています。

しかし、経営の更なる拡大や投資などで、生産活動が優先し、農村の特性を活かしたゆとりある生活の実践が難しくなっているのも実態です。

ゆとりある生活は、自らつくり出すものともいわれていますが、個人の価値感のみに頼るのではなく、家族みんなが農村に住んで良かったと、心から思えるような農家生活について考えてみましょう。

(1) ゆとりを考える

時間的ゆとり
（自由、余暇時間）

労働時間の短縮
- ヘルパー制度の利用
- コントラクターの利用
- 高性能機械の導入
- 省力化施設の導入
- 作業内容・体系の省力化
- 仕事の分担・交替制
- 計画的な時間の使い方
- 農休日の設定

経済的ゆとり
（自由になるお金）

- 生活周期に応じた必要家計費の確保
- 労働報酬
- 小遣いの定額化
- 長期生活設計、予算化に基づいた安定した暮らし
- 安定した所得の確保

精神的ゆとり

心の豊かさ、充実感
- 個人が尊重される主体的な暮らし
- スポーツ・趣味
- ボランティア
- 地域づくり

自然、農の特性を生かした暮らし
- 環境整備
- 野菜づくり
- 農産加工

ゆとりある暮らし方とは、
心の豊さを重視して
仕事や家庭、地域社会の
いずれの場面でも、経済的
ゆとり・空間的ゆとり・
時間的ゆとり・精神的ゆとりを持ち、
全体としてバランスのとれた暮らし方のことと言われています。

2．酪農家に見る〝ゆとり〟

いま、暮らしは、大きく変わり、
一戸、一戸の農家は、個性的なライフスタイルを持ってます。
家族一人、一人の主体性や役割を尊重する家庭が実現しつつあります。

(1) 心のふる里や、やすらぎを

◦ **ゆったり四季に合わせた生活**

四季折々の草花、野鳥を呼ぶ小果樹を植え込み、季節の移り変わりを楽しんでいる。

◦ **広い土地柄を生かして**

広々と走りまわれる芝生、パークゴルフ、バーベキューハウス、ログハウスなどを敷地内に作り、農家ならではの生活を実践している。

◦ **花づくり**

季節ごとに咲く草花を育て、図案化をして花壇をつくり育てる楽しみ、見る楽しみを培っている。

◦ **愛玩動物と共に**

犬、猫はもとより山羊、羊、ガチョウなどの小動物を飼い、生活の中で動物と触れ合い助け合った生活をしている。

(2) 農村ならではの食文化

◦ **野菜づくり**

ハウス、マルチ、トンネル等を使って多種類の自給野菜をつくり、栽培する喜びと共に家族の健康管理に努めている。

◦ **産地直売**

余剰野菜は、親戚・知人との交際に使ったり、産地直売にグループで取り組み、地域の人達に大変喜ばれている。

◦ **伝統的な食文化の伝承**

生産した牛乳で、チーズをつくり、酪農家ならではの生活を楽しんだり、漬物、いずしなど伝統的な保存食をつくり、技術を伝承している。

(3) 地域づくりや交流

◦ **太鼓やお祭り**

地域全体で楽しめる郷土芸能や文化を育て、地域に活力と潤いを与えている。

◦ **都市との交流**

ファームイン、国際交流など異業種の人を受け入れ、人との出合い、交流から自らの体験視野を広げている。

◦ **ボランティア**

福祉活動に積極的に参加、誰もが安心して住み、生活できる地域づくりに力を注いでいる。

◦ **家族の行事**

子供の成長に合せた節目の行事や、夏休みを利用したキャンプ、一泊旅行などを生活の中に計画的に組み入れている。

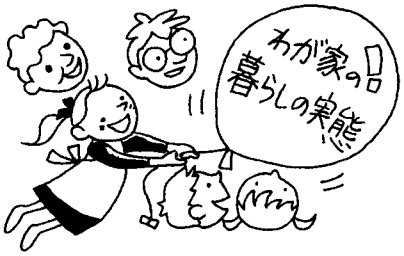
3．あなたの考えをチェックしてみましょう。

あなたの農業に対する取り組み、ゆとりに対する意識はどのような傾向にあるでしょうか。
現状を見直し、実現したい暮らしや夢を具体的に描き実現するため家族で話し合ってみましょう。

(1) 経営参画の点検

A 合 計	点

	項　目	5　点	3　点	1　点
職業	職業意識	農業に生きがいを感じている	生活のための手段として考える	職業としての意識は別に無い
	経営方針	家族内の話し合いで決めている	従事者の一部で決めている	経営主の独断で決まる
	就業条件の整備	就業条件などを明らかにしている	だいたい決まっている	曖昧である
	経営における役割分担	家族の話し合いで決められている	従事者の一部で決めている	経営主の指示のみ
	教育研修	農業・生活に関する研修は大切と思っている	つきあい程度に参加している	研修があってもほとんど参加しない
経済	農家経済の把握	経営収支を把握し経営状態がよくわかる	だいたい把握している	全くわからない
	労働報酬の支給	労働の対価としての報酬が決められている	青色申告の上では支給されている	支給されていない
	家計費予算と確保	家計費を把握し、家族周期に応じ予算化	家計費は把握しているが予算はたてていない	家計費を把握していない
	自由になるお金	自由意志で使えるお金が確保されている	必要のある時や余れば確保できる	小遣いは特に決まっていない
	生活保障	妻名義の財産形成がされている	妻名義の財産は少しはある	ほとんど無い
時間	家族と過ごす時間	大切に考え意識的に作る努力をしている	全員は集まらないが過ごす時間はある	何となく集まっている
	夫婦の時間	共に考え行動することを大切にしている	大切とは思うがなかなか時間がとれない	ほとんどとれない、すれ違いである
	自分のための時間	自分のための時間を生み出す努力をしている	余った時間をあてている	時間に追われている感じの方が強い
	暮らしの計画化	将来を見据えて暮らしの計画を考えている	計画的に暮らしたい気持ちはある	なかなか計画はできない
	休日の確保	必要に応じて、または、定期的に取っている	できるだけとりたい	全くとれない
点　数				



(2) ゆとり意識の点検

B 合 計	点

	項 目	5 点	3 点	1 点
心	将来の夢目標	農業や生活に常に夢や目標を持ち進めている	考えはあるが具体的にはなってない	夢も目標も持っていない
	趣味	心を豊かにする趣味があり継続している	趣味を持ちたいと思い考えている	趣味は特別無い
	自己決定権	家族員個々の考え方や意見が尊重される	全員の意見が反映されにくい	意見は言わない
	家庭文化行事	年間の家族行事を計画的に実行している	できるだけ実行している	家族行事は特別組んでいない
	信条	農業や生活に対する具体的信条を持っている	信条はあるが具体化されていない	信条は持っていない
人	パートナーシップ	経営や生活について夫婦でよく話し合う	コミュニケーションの機会が少ない	話し合われていない
	育児・教育方針の一致	教育方針があり、家族が皆知っている	教育方針はあるが家族内で周知されていない	教育方針は特別無い
	家族関係（世代間）	家族が気兼ねなく話し合える雰囲気がある	話し合う努力をしている	話し合いの雰囲気は無い
	交友関係	新しい友人や同じ目的を持つ仲間がいる	友人や仲間づくりをしたいと思っている	友人や仲間は特別必要としていない
	社会参加	地域の会合や研修に積極的に参加している	都合のいいものだけ参加する	ほとんど参加しない
空間	作業環境の整備	安全性、衛生面に配慮した施設空間である	将来的に整備する計画をたてている	考えていない
	住環境	プライバシーが保てる空間、間取りである	プライバシーを尊重した空間を確保したい	特別考えていない
	環境美化	住居内外の衛生美化の向上につとめている	将来的に手がけたい	環境美化に取り組む余裕が無い
	地域空間	地域に交流空間やイベントなどの夢がある	考えはあるが具体的では無い	考えたことも無い
	ゆとりと交流スペース	農家らしさを生かした空間や施設がある	将来的に欲しい	特別考えていない
点数				

(3) 診　断

診 断（A＋B）

120点以上	61～119点	60点以下
経営に参画する意識があり、前向きに目標を持ち進んでいるようです。今後も主体性を発揮した楽しい農業を築きましょう。ただし満点の人は完璧すぎているかもしれません。	今後の頑張りが、これからの経営や生活に大きな流れを作るでしょう。ひとつひとつの思いを具体化させて行きましょう。ただし、途中であきらめたりギブアップすることのないよう一歩ずつ進もう。	不満や疑問点が多いほど改善点はたくさんあるはずです。仕方無いとあきらめず、プラス思考で取り組んで行きましょう。いつからでもチャレンジできるのも農業の魅力なのですから…仲間は一杯いる！

4．夢はグループとともに

最近は、趣味を楽しんだり、関心のあることに積極的に携わる人が増えてきました。

しかし、個々の活動となるとある範囲でとどまってしまうために「仲間がいれば」と感じることも多いようです。

同じ目的をもった仲間が集まりグループ活動を行うことで、自分のため、地域のため、社会のためになる〝宝〟を見つけ出せるようになります。

ここでは、実際に地域で活躍している事例を見ながら、グループ活動の魅力について紹介します。

(1) 夢を広げたグループ活動

① チーズの会

チーズづくりで心豊かに

最近手づくりチーズに関心のある酪農家が増えてきました。そんな中、チーズづくりに関心のあるメンバーが集まってできたのが「チーズの会」です。

チーズづくりを通して、心豊かになる活動をめざした会です。

チーズの会として

手始めは、加工施設でストリングチーズを作り、手づくりチーズの基礎を学びました。

その後は、広いネットワークを生かし、ゴーダーやカマンベール、サンマルセランといったチーズの作り方を覚えました。

また、会でチーズづくりに必要な道具やスターター（乳酸菌）、レンネット（凝固剤）といったものも取りまとめて購入するようになり、家庭でもチーズが作れるようになりました。

家庭の味、チーズ

家庭でのチーズ作りは、設備の整った加工施設とは違い、失敗もありますが、仲間同志での情報交換ができるため、技術はメキメキと磨かれていきます。

今は、お互いのチーズを賞味しながら例会を行っており、会員の楽しみの一つとなっています。

チーズづくりは、生活の一部になるほど上達しましたが、研修会や視察、実習などを行い自己研鑽を忘れません。

酪農家ならではの生活の楽しみ方を実践し、精神面で暮らしの豊かになる活動です。

▶グループの魅力１

同じ目的をもった仲間がいると心強いものです。

▶グループの魅力２

個人だと道具や材料の入手先かわからない、単位が大きすぎて１人ではもてあます、ということがありますが、グループならそんな悩みも解消できます。

▶グループの魅力３

仲間がいることで、不安も楽しみも共有でき、活動を続ける上での励みになります。

② ＪＡ根室女性部手づくりの会（根室市）

農村を仲間で楽しむ

ＪＡ根室女性部には、リースをはじめとする手づくり作品を製作、販売している仲間がいます。グループという決まった形ではありませんが、毎回６～８名が集まり活動を行っています。

各家庭で育てた花の他、道端の野花、牧草、木のつるなどを各自が採集して会合の時に持ち寄り、それぞれの感性を生かした作品に仕上げます。

▶グループの魅力４

みんなで材料を持ち寄るので多彩な素材とアイディアで作品づくりができます。

販売できたらいいね 夢の実現へ

どんぐり人形づくり

回を重ねるうちに「販売できたらいいね」という話がでてくるようになりました。

多くのメンバーは、現実感のない夢話と感じていましたが、女性部長が根室おみやげ館「光風」（根室市駅前）にかけあい販売スペースを設けてもらったことで実現へと向かいはじめました。

▶グループの魅力５

個人ではあきらめてしまうようなことも仲間が同じ気持ちになると実現できます。

根室らしい作品を

おみやげならもっと根室らしさを出そうと「あさり」や「しじみ」「かき」などの貝殻に草花をあしらったアレンジメントや貝殻人形などオリジナル作品を作り、販売することになりました。

オーストラリアからのミニリースのおみやげも新しい作品の参考になりました。

かわいらしく、持ち帰るにも手頃と好評で人気商品の一つとなりました。

手づくり作品は各地方から訪れた人たちに根室の自然や風土を伝えるすてきな役割を担って今日も「光風」に並んでいます。

▶グループの魅力６

新しいアイディアを求めて物の見方に幅がでてきます。

仲間がいるとアイディアも倍増します。

③　中西別園芸クラブ

奥の深い苗づくり

中西別園芸クラブでは、地域の住宅周りの環境美化のために花の苗を育てています。

花の種類は、花壇用として人気の高いサルビアとマリーゴールド（黄・橙）です。

苗づくりは、温度、水、土、肥料などの微妙な変化が大きく影響します。よりよい花の苗を育てるため数種類の土を使用し、その生育具合を比較するなど、熱意ある活動を行っています。

▶グループの魅力７

グループ活動では、奥深い活動が可能となります。

花のある地域づくり

花の苗は、あらかじめ各種団体や一般家庭などから注文を受けて、花壇整備がはじまる６月上旬頃から、格安の値段で配布します。また、地域のイベントでも販売を行い、苗づくりに手をかけられない忙しい人たちにも好評です。

公共施設には、無料配布を行い、地域の花壇に彩りを添えます。

自分たちが育てた花が町を明るくしているのを見ると、来年の励みになります。

▶グループの魅力８

利用者の感謝の声を直接聞くことができるので今後の花苗づくりの励みになります。

④　その他のグループ

(2) 広がる交流グループネットワーク

今、グループ間での交流、情報交換を行う動きが活発になってきています。

近隣のグループとの交流はあっても、それを越える情報網はなく、ネットワーク形成の要望が出ていました。

そこで、根室管内でも平成８年度から「農村女性地域グループネットワーク形成事業」が別海町の４グループを含む計10グループでスタートしました。

もっと知りたい農村女性地域グループネットワーク形成事業Q&A

Q１．「農村女性地域グループネットワーク形成事業」の目的は？

A．地域で頑張っている女性グループ同志が交流する場を持ち、さらに幅広い活動を行うことを目的としています。

Q２．根室管内ではどのような活動を行っているのですか？

A．平成８年度に始まって10月迄に各グループの代表者による連絡会議が３回開かれています。

その中で、グループ紹介を行ったり、今後の方向性を話し合い交流を深めています。

「グループネットワーク」
中西別メロン研究会の
メロン試食会の１コマ

Q３．今後の活動はどのような予定ですか。

A．これまでは代表者による連絡会議でしたが、今後はグループ内の方々との交流を検討中です。

また将来的にはネットワーク参加グループが一同に会する〝つどい〟や〝作品展〟などを行いたいとの声もあり、夢は広がっています。

このネットワークの主役は参加グループの皆さんです。何をしたいか、どう進んでいくかは皆さんの話し合いの中で自主的に決めてゆくものです。

＝参加グループの一部紹介＝

◆計根別サフォーク手紡ぎの会

綿羊の毛を紡ぎ、染色し、小物やセーターなどを製作しています。

◆上春別地区食生活改善協議会

日常の食生活を通して家族の健康づくりを行うことを目的とした活動を行っています。

◎別海町からの参加グループ

- 根釧ＰＦ自家生産物加工研究会
- 上春別地区食生活改善協議会
- 美原園芸グループ
- 中西別メロン研究会

◆小鳩会

簿記や家計簿の学習、石けん作り、きのこ栽培など幅広く活動しているグループです。

5．あなたならどう暮らしたい・農家（多世代家族）の住まい方

高齢化社会・長寿社会へと進む中、豊かで個性ある「生活づくり」が今、叫ばれています。

豊かさといっても「もの・金」だけの時代は終りをつげ、心の豊かさを求め又農業が人間の文明、文化の「母」であると再評価する時代だとも言われています。

だから、都会の企業戦士達が目標半ばにして母なる大地、農村への移り住みいきいきと輝きの生活をはじめるのも、うなずける昨今です。

そのような「人間にとっての農業」と全人類の「心のふるさと」としての農村社会をみんなで築くために毎日の「住まい方」について考えてみましょう。

(1) 全道における現在の住まい方（多世代同居）4つのパターン

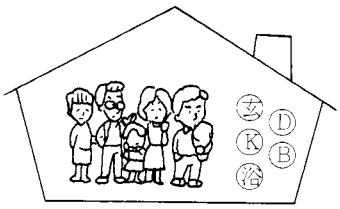
① 同　居　型……個室（寝室）以外はすべて共有
② 一部独立型……居間・寝室が独立し、他に出入口・台所・トイレ等一部共有
③ 住み分け型……同じ棟で世代別に住み分ける
（上下または縦割分割型で玄関他全て別にする）
④ 別　居　型……同じ敷地内または敷地外で別棟で建てる

(2) 全道農家の住まい方アンケートから

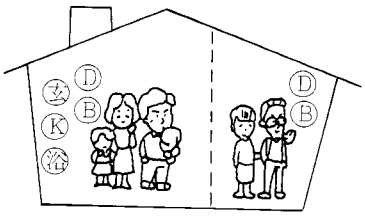
（全道農家3,591戸の住まい方の実態
H５年網走支庁管内普及員生活部会調査）

現在の住まい方

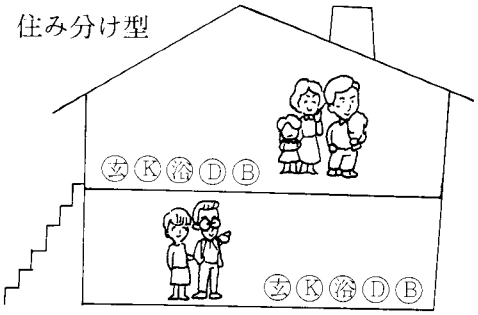
① 同　居　型　85%



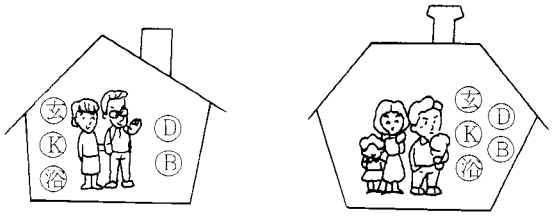
② 一部独立型　11%



③ 住み分け型



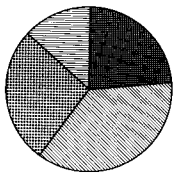
④ 別　居　型　4%



㊀＝玄関　Ⓚ＝台所　㊁＝浴室　Ⓓ＝居間　Ⓑ＝寝室

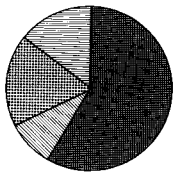
将来望む住まい方

後継者の母



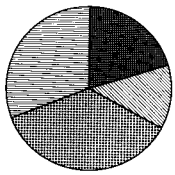
	名	%
同居型	7	23.3
一部独立型	11	36.7
住み分け型	8	26.7
別居型	4	13.3
合計	30名	

後継者



	名	%
同居型	50	58.1
一部独立型	8	9.3
住み分け型	15	17.4
別居型	13	15.1
合計	86名	

未婚女性



	名	%
同居型	11	20.0
一部独立型	7	12.7
住み分け型	20	36.4
別居型	17	30.9
合計	55名	

住まい方についての女性の意見あれこれ

★ 子供、家族が外から帰って来たとき、必ず顔をみて個室に入れる造りにしたい。
★ 同居することで意思の疎通ができ、人間関係をつくるうえでは大事なこと。
★ どんな住まい方をしていても、その中で話し合いがなされていれば最高です。
★ 二世代、四世代であろうと笑顔のある家が一番。形態別よりもそこに住む人の相互の話し合いと努力が必要と考える。
★ 各世代ごとにプライバシーを保ち知人友人を遠慮なくまねくことが出来るようにしたい。
★ お互いに気兼ねなく暮らしたい。将来住み分け型が希望です。
★ 家族全員でくつろげる場所も必要だが、個人のプライバシーを守れる部屋も必要です。
★ 一家に主婦２人は大変です。上手な仕事の分担ができるのなら同居も最高なのでしょう。
★ 基本的に家族は夫婦単位で考えたい。元気なうちは別居。手助けが必要になった時は親身に介護する事。
★ 家族互いが精神面、仕事の面で自立できる住まい方をしたい。

住まい方４パターンの長所・短所

	同居型	一部独立型	住み分け型	別居型
長所	子供の世話をしてもらえる 家族の会話がある 経済的、家事をしてもらえる 健康状態がわかる	自分の時間が作れる くつろげる 夫婦単位の時間がある 気がねなく客をもてなせる	プライバシーが守られる	自立心が養われる 家族内の挨拶など礼儀が守られる
短所	プライバシーが守られない 気を使う　干渉される 客の接待に気をつかう	家事が複雑になる	経費がかかる 家族の連携がより必要	家事量が増える 経費がかかる 病気の時不安

これからの住まい方は……

住まい方の今日的課題

(1) 昔は子供の数が多い大家族構成に対して、今は三～四世代が複合した家族構成になっていて、世代間での価値観の違いがある。

(2) 若い女性は、自活した生活経験を持っていることが多く、生活に対する経済観念、価値観等、意識が高く自分の生活信条を持っている。

(3) 多世代同居の中で「イエ」中心的観点で生活・行動することが多く、住んでいる人の個性が生かされづらい。

(4) 同居をして暮らしても、具体的な互いの役割分担が明確にされず気まずい思いをすることがある。（言わなくてもわかるという思い込み）

こんな風に暮らしてみたい（アンケートの結果から）

★「親子であっても、互いの生活サイクルが尊重でき、それでいて共通の時間が持てるようにしたい」

★「自分の空間（気を使わなくても良い）」がほしい

★「同居、別居という割り切り方ではなく多世代のプライバシーを守りつつ、仲良く暮らしていきたい」

★「大家族には、あこがれます」

多世代家族住宅づくりのポイント

(1) ライフスタイルに合った住宅ビジョンづくり

各世代の住まいの意識、住まいの要求の相違を十分把握し、それぞれの世代間の特徴をつかんでおく必要がある。

(2) 自立を助ける高齢者向きの住まい方

老後の生活を考慮し、住居内生活が多くなりがちなので、安全性、利便性を考えた設備、介護する家族の負担を配慮した設計。

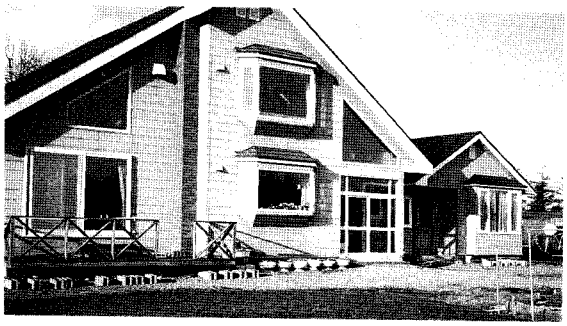
(3) 居間の充実

家族の団らん、リフレッシュ、接客する場としての居間の広さ、雰囲気、配慮。

(4) 食事室の多機能化

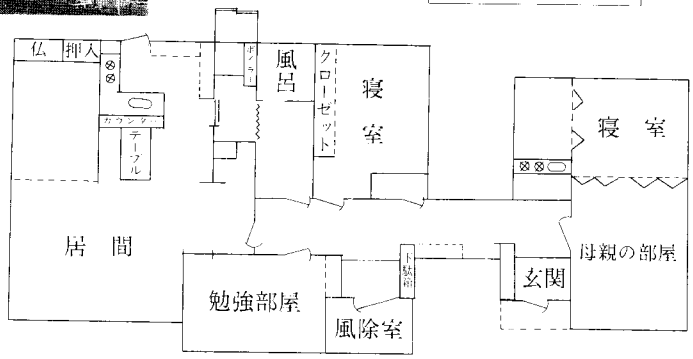
(4) 上手に工夫して暮らしている住宅の紹介

紹介1



<家族構成>
経営主－42才
妻　－38才
長　女－17才
次　女－14才
長　男－10才
母　－65才

家族の絆をむすぶ廊下



～お母さんからひとこと～

「2年前に家を建てた時は、若い人達とは一緒ではなかったのですが、一緒に住むようになってお母さんの居間と寝室を増築してくれました。少しは経済援助もして、好みにあった木のぬくもりを感じられる木目をふんだんに使いました。今では趣味の友達をはじめ多くの友が訪れてくれて、楽しい毎日です。もったいないくらいの幸せを感じます。家族との絆をむすぶ廊下を今日も孫の足音が響きます。又この部屋は私のささやかな城でもあるのです」

紹介2

<家族構成>
経営主－39才
妻　－34才
長　男－11才
長　女－9才
次　女－8才
父　－65才
母　－62才

～若妻さんからひとこと～

結婚と同時に7年間親と同居してくらしました。3年前同じ敷地内に若世代用の家を新築し、暮しています。互いに大変忙しい生活リズムの中、調整やら気遣いも多かったのですが、今では互いのマイペース、プライバシーも守りあい、コミニュケーションはむしろ深まったような気がします。

おかずはほとんど、お母さんからいただくことが多く感謝の毎日です。子供も行ったり来たり、ささやかな記念の日にも合同のお食事会です。3年たって私達も少しは親から自立できたかなって思うのですが……。

ちょっと一息

～酪農家の漬け物～

最近、あっちこっちの農家でチーズづくりが行われている。
チーズづくりの講習会も盛んに行われていて、手作りチーズを作る人も増えて来た。
私も、出来上がったチーズをごちそうになることがあるがこれがまたおいしい。
ゴーダ風、カマンベール風、さらにはストリングチーズとさまざまである。

１キロのチーズを作るには、およそ10リットルの牛乳が必要になる。
さすがに、一般家庭ではちょっと勇気がいる。
さらに、道具をそろえるのがちょっと大変。
市販のチーズ作り用の機材を買い込むと、普通の人は財布の中身が空になるどころではすまない。
しかし、私にチーズ作りを見せてくれたおじさんは、工夫一つでそれを乗り越えていく。
容器には、冬になると出回る漬け物箱を使い、カードカッターなどの器具は手作りしてしまった。

チーズを作る作業にはおよそ半日かかる。
当然、多くのチーズを作ろうとすると労働だって半端じゃない。
途中の細かく切ったカードを１時間もひたすらかき混ぜる作業などは、私をチーズ作りから遠ざけるには十分であった。
ところが、おじさんは私にこう言うのだ。
「どんなチーズができあがるか考えていると、この時間がたまらなく楽しくなる。」
彼の笑顔を見るとそれがうそではないことがわかった。

一通り作業が終わった後、２ケ月前から熟成してあったゴーダ風チーズをごちそうになった。
半日の作業を思い出すとまた違った味がした。
「漬け物にそれぞれの家庭の味があるように、それぞれの農家の味でチーズができたらいい。」
そう語ったおじさんの顔は自信に満ちあふれていた。